

板ガラス・リサイクル再資源化部会の活動目標について

「サステナビリティ特別委員会板ガラスリサイクル・再資源化部会活動目標」の進捗基準として『カレットリサイクル率』のKPIを設定する

1. 『カレットリサイクル率』の設定

『カレットリサイクル率』は、下記算定式により算出される  
なお、以降プレコンシューマーカレットを「**プレカレット**」、ポストコンシューマーカレットを「**ポストカレット**」と表記する

カレットリサイクル率 = 
$$\frac{\text{「プレカレット」+「ポストカレット」}}{\text{バージン材料} \times \text{板協ガラス化率 (0.817)} + \text{内部循環カレット} + \text{プレカレット} + \text{ポストカレット}}$$

- ※ 1 生産状況（歩留まり）の影響を排除するため、内部循環カレットは「カレット」にカウントしない
- ※ 2 詳細は「板硝子協会板ガラスリサイクル率定義」Ver 3. 2024/10/18 による

2. ポストカレット発生量の推定と『カレットリサイクル率』のKPI設定方法

ポストカレットとして回収の可能性が高い廃板ガラスの量は  
建築用については、25年前の窯業建材統計の板ガラス生産量と当時の出荷構成比  
自動車については、7年前の生産構成比  
により算出し、この最大量を2050年に置き、ここからバックキャストし**KPIを設定した**

- ※ 1 現状でカレットとして利用するために、物性上いささかの制約があるガラス種については除外することとした。
- ※ 2 逆に、物性上の問題はないが、回収方法において取り外しや物流上の課題が想定されても考慮していない
- ※ 3 詳細は追加資料「板ガラスポストカレットの回収可能量の推定について」参照
- ※ 4 今後のトレンドは、『**単板減少、複層・合せ急増**』であり、この意味からいっても**複層・合せの易解体技術の開発は急務の課題となる**

3. KPI

| 年度    | ポストカレット<br>リサイクル量 | カレット<br>リサイクル率 | 想定CO2<br>削減量 | 〈参考値〉<br>2023年のカレットリサイクル率は25% |
|-------|-------------------|----------------|--------------|-------------------------------|
|       | 万t/年              |                | 万t/年         |                               |
| 2030年 | 9.7               | 33%            | 2.9          |                               |
| 2035年 | 17.8              | 40%            | 5.3          |                               |
| 2040年 | 25.9              | 45%            | 7.8          |                               |

KPI値はリサイクル量の理想論上のMAX量を想定した『**超ストレッチ数値**』となっているが現時点においては板ガラス産業のリサイクル実行への強い意思を表明する意味も含めている



「実現可能性は走りながら考える!!」

4. 基準年

2024年度（4-3月）とする

5. 適用の提案

- このKPIは
- ① 板ガラス産業の2050年カーボンニュートラルへのビジョン2024
  - ② 産構審・経団連「カーボンニュートラル行動計画」
  - ③ サーキュラー・パートナーズ活動のCEに関する定量目標
- の該当箇所に適用し、板硝子協会としての一貫性を担保してはどうか。

以上